



門 9  
號 4374  
卷 2

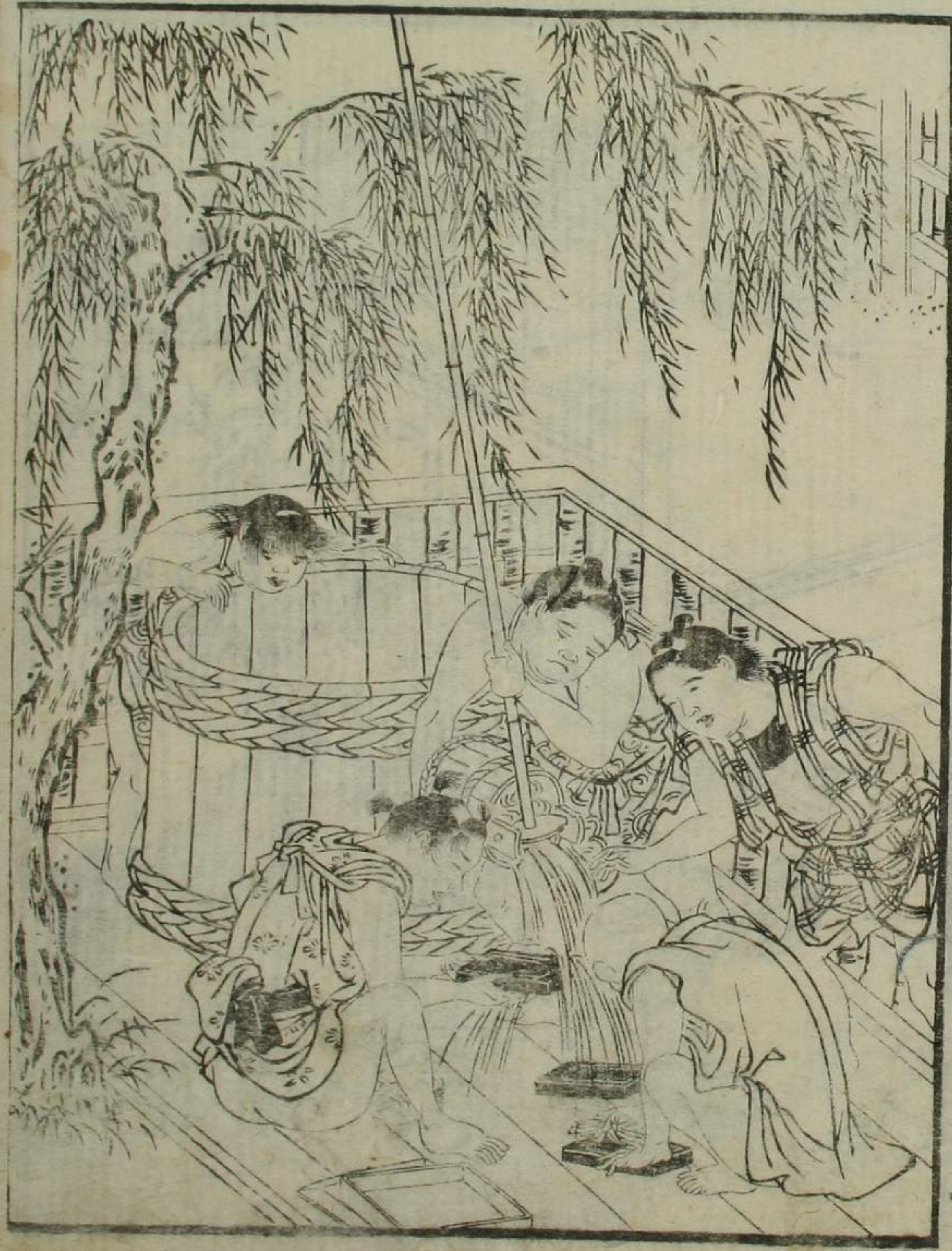


二月二十九日









七夕下ノ式

















紀 定 磨

今宵あふ星は下界へおほも戸のちほひ引窓の口  
奇く羅金鶴

七夕もまらまらあふちほひや新れちき別  
浅草市人

糸竹はあふちほひのあふちほひもむとあきり

園 胡 蝶

星はあふちほひのあふちほひもむとあきり

糸 乃 起

いつとも初念きりある唐衣うけしき星のあふちほひ



紀 輕 人

菊 透 壺

七夕のまつりよき方の月餅やういゆ星れ今海よりし

麦 系 笛 茶

又日の関びとをそり今子手向を終りし十之の系

一 行 亭

少日の来しとの日よりい流いと指ひとり雅江やをそり

物 野 的 丸

叙といへあふ七夕の思ひく白き心もれお夏のさうす

橘 赤 枝

久いうよ五百株やめて城女の思ひく法師の業あふらん

萬 徳 舟

梶系よゆくの梶のこむけても二人あき星の妻を

橘 鉢 植

むとをぬる牛ハよとれ中流のんあふ七夕の秋のむつ言

舟有改 山 井 朝 榎

短冊よらひのこらぬをさくーさめとて心送る文月

伊 勢 阿 々 輔

系衣つきくまう七夕へ色糸短冊あてて手向く



市 仲 住

月影のさし合ひ形 曳て来るう満以の早れ登り

先 凶 年 類

ふぬらふいろ種といへと天八の御まきりある事 運路

馬 毛 糸 解

七夕のあふ世と早登さぬさ汗や流り天の川原

足 曳 山 丸

は田中とおさげもやめくさる婿のきまハ川のちこからん

櫻 枝 鞠

川場子牛もよほや流きん早のあふせんふむくぬく

紀 長 人

年くの舞入あね天川あうけ早も名をあつらん

花 高 丸

七夕お年ぬづひ紙一あふくもほくさふ月の空

胡 椒 丸 吞

星さよひあもあふくはげしうて二年よ一ふのあも渡り

紅 浦 金 色

老星のいさけはよりた織女もいさいてるうと行合おそ

田 原 船 棧

一とあふさるおとあてふ五百さの系と女房誰も新合



吳竹世尊

天子ある方ありすれはあま早きとむくのきのおも

高根雪風

七夕のせむ夜をくしむとあはてあつらひ月くま

深草きん

又月あふ七夕のころれまふとまもくも強あわ

中より小より

七夕の雲れ夜の寝込初るのいよにあつとさく

山家度住

七夕の今方うら舞の羽衣の裏のもみちの格うけ

物事喜丸

七夕の年よ一尽んを深のあいなるともくはきを

森語軒美隣

とあへの出金あて天一方はに骨虚のあつとい

千本枝葉

かゝりぬきとけきく二つ星あをせもくや海と橋

外穂菴

織女といも夫のうらむあはれはく一尽んの

三花羅法師

翁のころせむ橋よじく牛のよきはるあを文よりの



寂唐社人

梢をよに吸付あふ七夕の夜よいけり 芋の玉はけし由

花咲子重磨

天川よりせり格れぬあまよ今宵を彼証なり今わを

芳相段 竹をぬく歩

年よのりよとまねも下目くくんとていあやうけ鶯の格

高砂浦風

索新も短く切て手向つー紅糸おれりよかほやとつ

鶯羽風

井代よりあふ七夕とまきくくよほれいくよお孫やいこり

坊 赤人

掌新は子向れ半よとまきくくよあつ所も糸のあつら

月合丸重

七夕の天のうらけ海よりきくおとあつあつあつあつあつ

増 明 兼

早合れを採りしつてあつあつあつあつあつあつあつあつ

一宮 富士 二 鷹

天川よりきく 葉子向くとまきくくよあつあつあつあつ

酒 月 東 人

まきくあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ



無柔 鈴成

五百歳のとらうらむ

子安 美来

しん早も年よ一交の片括は先うまきんやとらうら

柱 百 住

一あよよもつきせしれえ早ね年のふらぶのまきむ言

籬 唯 沈

年よ一交あふう命の波漕とさうりりしゆや新合のち

人 才 保 小 才 保

素早のしんくすのちれともよしん系の新

由 縁 色 成

いく世あふ早ね髪は下界よりやれむとせむやれ一交の

延 喜 合 集

素早のしんくすの七つ目をあふ交の安を羊やとら

倉 遠 子 文

短冊のさむお一板の流りよ起もあふ天の川終

屋 職 中 丸

七夕のまき鹽う天の川をうまうたれてとせりぬ

柳 系 向

雨雲にまひりあめと七夕の氣とやみちの橋渡



一板てもかゝりてしるゝもあはれは夕顔のつるのふれを  
 宿屋飯盛  
 唐衣橘川  
 豊年雪丸  
 七夕もくれいさくらん日くさきさきの小社寄り

萬葉堂藏板繪本目録

繪本武將一覽	全三冊	全	吾妻袂	全三冊
武將記録	全三冊	全	江戸爵	全三冊
十宇治川	全三冊	全	駿河舞	全三冊
碁言前節	全三冊	全	詞の花	全二冊
吾妻遊	全三冊	全	天竺川	全二冊

寛政九己正月  
浪華書林

心持持節取寄所南入  
和泉屋源七板



